

台湾の中元節

ハローフレンド通信別冊 Hello from Fukuroi Vol.42

「中元節」とは中華圏の先祖を祀る伝統行事の一つで、旧暦7月15日に行われてきました。

2022年の「中元節」は8月12日です。

日本の「お中元」でお世話になっている方に贈り物をする習慣は、もともとこの「中元節」に由来しています。

旧暦の7月は鬼月（クィユエ）と呼ばれ、一か月の間霊界の門（鬼門）が開き、祖先の霊も悪い霊も下界をさまようと言われています。



静かに過ごす 台湾の「中元節」



台湾の「中元節」は祭日です。一般家庭やお店などの軒先に様々なお供えをたくさん並べ、線香を焚いて靈魂を慰めるしきたりがあります。

毎年旧暦7月には、霊を迎える準備を始めます。

会社やビルの前でも、お供え物として食品が並べられるようになり、中元節には、ピークとなります。

家や建物などあちこちで香が焚かれ、霊界で霊に不自由がないようにと、霊が使えるとされるお金を燃やします。

またこの時期は、悪霊がいるのでやってはいけないとされることがあります。

- 旅行や引っ越し、結婚式などはしない
- 玄関の靴を出しっぱなしにしない
- プールや海など水辺には近づかない
- お供え物を盗み食いしない
- 夜に洗濯ものを外に干さない
- 落ちているお金やご祝儀袋を拾わない



などなど。住んでいる町によって、タブーとされることは少しずつ違うそうです。

屏東県の「恆春搶孤」

袋井市と交流のある台湾の屏東県の恆春（ヘンチュン）では、鬼月の最終日に搶孤（チャングー）というイベントが行われます。

とら
銅鑼や爆竹、ラッパが鳴り響く中、油が塗られた10mもの柱を登り、柱の先端にある旗を奪ったチームが優勝です。迫力満点！

搶孤は台湾の中元節を代表する伝統行事の一つとして受け継がれています。

